

## 水稻新品種「ちくし6号」の特性

今林惣一郎・浜地勇次・古野久美・西山 壽 (福岡県農業総合試験場)

Souichirou IMABAYASHI, Yuji HAMACHI, Kumi FURUNO and Hisashi NISHIYAMA : Characteristic of a New Rice Cultivar "Chikushi 6"

福岡県農業総合試験場では、1993年に水稻新品種「ちくし6号」を育成した。本品種の育成経過はすでに報告したので、ここでは普及対象品種である普通期栽培の「ミネアサヒ」「キヌヒカリ」との特性の比較を中心に報告する。

### 1. 形態的特性

稈長、穂長は「ミネアサヒ」よりやや短く、穂数は同程度の短稈偏穂数型である。葉色は中、止葉はやや立ち、粒着密度はやや密で、稀に極短芒がある。ふ先色及び穎色は黄白、脱粒性は難である。

### 2. 生態的特性

出穂期及び成熟期は「ミネアサヒ」よりやや早く、「キヌヒカリ」と同程度の早生の早に属する稈種である。稈の太さ及び剛さは各々やや細、中で、耐倒伏性は「ミネアサヒ」「キヌヒカリ」よりやや弱い程度のやや強である。穂発芽性は難である。

いもち病抵抗性遺伝子型は Pi-i をもつと推定され、葉いもち圃場抵抗性は弱である。穂いもち及び白葉枯病圃場抵抗性は「ミネアサヒ」よりやや弱く、「キヌヒカリ」並みのやや弱である。

収量性は「ミネアサヒ」「キヌヒカリ」よりやや優れる。

### 3. 品質・食味特性

玄米の形状は中で、やや小粒である。千粒重は「ミネアサヒ」よりやや重い。腹白、心白及び乳白の発生は極く少なく、玄米の色沢は「ミネアサヒ」よりやや淡く、中、光沢はやや優れる。外観品質は「キヌヒカリ」よりやや優れ、「ミネアサヒ」並みの上下である。搗精時間は「ミネアサヒ」「キヌヒカリ」よりやや長く、適搗精の白米白度は「ミネアサヒ」並みで、「キヌヒカリ」よりやや高い。搗精歩合は「ミネアサヒ」「キヌヒカリ」とほぼ同程度の普通である。

炊飯米は「ミネアサヒ」より外観が良く、粘りがあり、食味総合評価はやや優れ、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」並みの「上中」である。

### 4. 適用地帯

福岡県では極早生の良食味品種「ミネアサヒ」, 「キヌヒカリ」及び「コシヒカリ」の3品種で全作付面積の約30%を占めている。しかし、「ミネアサヒ」と「キヌヒカリ」は穂発芽しやすく、「コシヒカリ」は倒伏しやすい欠点がある。

そこで、倒伏に強く、穂発芽性難、良食味である「ちくし6号」を県独自の銘柄米として、中山間地〜一般平

坦地における早植、普通期栽培の「ミネアサヒ」「キヌヒカリ」等に替えて、普及させる予定である。

### 5. 栽培上の注意

- 1) 生育量確保の点から、遅植は避ける。
- 2) 耐倒伏性はやや強であるが、良食味維持のために過度の追肥は行わない。
- 3) いもち病に弱いので、適期防除に努める。

### 引用文献

- 1) 今林惣一郎・浜地勇次・古野久美・西山 壽・松江勇次, 吉野 稔: 日作九支報 60, 5-8。

第1表 「ちくし6号」の特性概要

形 質		ちくし6号	ミネアサヒ	キヌヒカリ
早 草	晩 性 型	早生の早 偏穂数型	早生の早 偏穂数型	早生の早 中間型
出穂期 (月・日)		8. 13	8. 18	8. 12
成熟期 (月・日)		9. 16	9. 22	9. 15
稈 長 (cm)		72	74	75
穂 長 (cm)		17.6	19.7	17.7
穂 数 (本 / m <sup>2</sup> )		321	326	324
芒の多少・長短		稀・極短	稀・短	稀・極短
ふ 先 色		黄 白	黄 白	黄 白
ふ 色		黄 白	黄 白	黄 白
脱 粒 性		難	難	難
耐 倒 伏 性		やや強	強	強
穂 発 芽 性		難	易	易
耐 病 性	葉 い も ち (推定遺伝子型)	弱 (Pi-i)	中 (Pi-i, a)	中 (Pi-i)
	穂 い も ち	やや弱	中	やや弱
	白 葉 枯 病	やや弱	中	やや弱
玄米重 (kg/a)		47.6	46.0	45.8
同上標準比 (%)		103	100	100
玄米千粒重 (g)		22.6	20.8	22.6
玄 米 品 質 食 味		上下	上下	中上
		上中	上下	上中

注) 育成地における1990〜92年の普通期、標準栽培の成績。